

Y.OzFont - ペン字版

Y.OzFontは、ペン字風の手書きTrueType和文フォントです。仕事にも使えるキッチリした字体で、JIS第3～4水準までの総てを実装した本格派です。

外字も大量に収録し、OpenTypeの字形切り替え機能(OpenType Feature Tag)、Unicodeの異体字切り替えIVS(Ideographic Variation Selector)にも対応しています。

5種類の仮名バリエーションから選んで頂けます。

Nシリーズ - “新かな”

〔無印〕 - “標準かな”

Aシリーズ - “あんちつく仮名”

Cシリーズ - “キュートかな”

Eシリーズ - “学参仮名”

---- Y.OzFontN 新かな

「N新かな」は、モダンな印象の懐の広い仮名を持ち、横書きにした場合の可読性を追求しています。

Y.OzFontN 新かな

「標準かな」は、オーソドックスな仮名を持ち、特に縦書きにした場合にすっきりと読みやすいように設計されています。

Y.OzFont 標準かな

「Aあんちつく仮名」は、アンチック系明朝体の表情を持ち、標準かな同様、縦組みにした場合に特に見やすくなるように調整しています。

Y.OzFontA あんちつく仮名

「Cキュートかな」は、ポップ体にも通じるような明るい表情の仮名で、全く別のフォントを使ったかのようなイメージを与えます。

Y.OzFontC キュートかな

「E教育かな」は、教科書体の仮名の筆法を参考に新かなを微調整したもので、お子様向けの印刷物に使っていただけます。

Y.OzFontE 教育かな

木曾路はすべて山の中 である。あるところは岨

あア愛

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む

あいうえお アイウエオ
かきくけこ カキクケコ
さしすせそ サシスセソ
たちつてと タチツテト
なにぬねの ナニヌネノ

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこ

安以宇衣於 丈土堅壑孀
加幾久計己 岨峽昇樵樨
左之寸世曾 壽泰復残碕
太知川天止 杼窳籜苳蒹
奈仁奴禰乃 繡襪躡鞅吉

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

ABCDEFGHIJKLMNO
abcdefghijklmnopqrstu
0123456789,;!?:;"#\$%&
ABCDEFGHIJK
abcdefghijkl
0123456789,

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのか深い山間に埋もれた。名高い棧も、蕨のかずらを頼みにしたような危い場処ではなく、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であった。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位置へと降って来た。道の狭いところには、木を伐って並べ、藤づるでからめ、それで街道の狭いのを補った。長い間にこの木曾路に起こって来た変化は、いくらかずつでも峻険な山坂の多いところを歩きよくした。そのかわり、大雨ごとにやって来る河水の氾濫が旅行を困難にする。そのたびに旅人は最寄り最寄りの宿場に

木曾路はすべて山の中 である。あるところは岨

あア愛

あいうえお アイウエオ
かきくけこ カキクケコ
さしすせそ サシスセソ
たちつてと タチツテト
なにぬねの ナニヌネノ

安以宇衣於 丈土堅壘孀
加幾久計己 岨峽昇樵樸
左之寸世曾 壽泰復残碕
太知川天止 杼竈籥苴蒹
奈仁奴禰乃 繡襪躡鞢吉

ABCDEFGHIJKLMNO
abcdefghijklmnopqrstu
0123456789,;!?:;"#\$%&
ABCDEFGHIJK
abcdefghijkl
0123456789,

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこ

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのか深いか山間に埋もれた。名高い棧も、蕨のかずらを頼みにしたような危い場処ではなく、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であった。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位置へと降って来た。道の狭いところには、木を伐って並べ、藤づるでからめ、それで街道の狭いのを補った。長い間にこの木曾路に起こって来た変化は、いくらかずつでも峻険な山坂の多いところを歩きよくした。そのかわり、大雨ごとにやって来る河水の氾濫が旅行を困難にする。そのたびに旅人は最寄り最寄りの宿場に

木曾路はすべて山の中 である。あるところは岨

あ ア 愛

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む

あいうえお アイウエオ
かきくけこ カキクケコ
さしすせそ サシスセソ
たちつてと タチツテト
なにぬねの ナニヌネノ

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこ

安以宇衣於 丈土堅壘孀
加幾久計己 岨岨昇樛樛
左之寸世曾 壽泰復残碕
太知川天止 杼竈籥苴蒹
奈仁奴禰乃 蒨襪躡鞅吉

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

ABCDEFGHIJKLMNO
abcdefghijklmnopqrstu
0123456789,;!?:;"#\$%&
ABCDEFGHIJK
abcdefghijkl
0123456789,

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのか深いか山間に埋もれた。名高い棧も、蕪のかずらを頼みにしたような危い場処ではなくなつて、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であつた。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位置へと降つて来た。道の狭いところには、木を伐つて並べ、藤づるでからめ、それで街道の狭いのを補つた。長い間にこの木曾路に起こつて来た変化は、いくらかずつでも峻岨な山坂の多いところを歩きよくした。そのかわり、大雨ごとにやつて来る河水の氾濫が旅行を困難にする。そのたびに旅人は最寄り最寄りの宿場に

木曾路はすべて山の中 である。あるところは岨

あア愛

木曾路はすべて山の中である。ある
ところは岨づたいに行く崖の道であ
り、あるところは数十間の深さに臨む

あいうえお	アイウエオ
かきくけこ	カキクケコ
さしすせそ	サシスセソ
たちつと	タチツテト
なにぬねの	ナニヌネノ

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨
づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間
の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山
の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこ

安以宇衣於	丈土堅壘孀
加幾久計己	岨嶮昇樛樛
左之寸世曾	壽泰復残碕
太知川天止	杼竈籥苴蒹
奈仁奴禰乃	蒨襪躡鞅吉

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたい
に行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む
木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入
り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いてい
た。

ABCDEFGHIJKLMNO
 abcdefghijklmnopqrstu
 0123456789,;!?:;"#\$%&
 ABCDEFGHIJK
 abcdefghijkl
 0123456789,

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の
道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あ
るところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深
い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に
添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の

木曾路はすべて山の中である。あ
るところは岨づたいに行く崖の道で
あり、あるところは数十間の深さに
臨む木曾川の岸であり、あるところ
は山の尾をめぐる谷の入り口であ
る。一筋の街道はこの深い森林地帯
を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠
まで、木曾十一宿はこの街道に添う
て、二十二里余にわたる長い谿谷の
間に散在していた。道路の位置も幾
たびか改まったもので、古道はいつ
のまにか深い山間に埋もれた。名高
い棧も、蕪のかずらを頼みにしたよ
うな危い場処ではなくなつて、徳川
時代の末にはすでに渡ることのでき
る橋であつた。新規に新規にとでき
た道はだんだん谷の下の方の位置へ
と降つて来た。道の狭いところには
は、木を伐つて並べ、藤づるでから
め、それで街道の狭いのを補つた。
長い間にこの木曾路に起こつて来た
変化は、いくらかずつても峻岨な山
坂の多いところを歩きよくした。そ
のかわり、大雨ごとにやつて来る河
水の氾濫が旅行を困難にする。その
たびに旅人は最寄り最寄りの宿場に

木曾路はすべて山の中 である。あるところは岨

あア愛

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む

あいうえお アイウエオ
かきくけこ カキクケコ
さしすせそ サシスセソ
たちつてと タチツテト
なにぬねの ナニヌネノ

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこ

安以宇衣於 丈土堅壘孀
加幾久計己 岨峽昇樵樨
左之寸世曾 壽泰復残碕
太知川天止 杼窳籜苳蒹
奈仁奴禰乃 蒨襪躡鞅吉

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

ABCDEFGHIJKLMNO
abcdefghijklmnopqrstu
0123456789,;!?:;"#\$%&
ABCDEFGHIJK
abcdefghijkl
0123456789,

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのまにか深い山間に埋もれた。名高い栈も、蕨のかずらを頼みにしたような危い場処ではなくなって、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であった。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位置へと降って来た。道の狭いところには、木を伐って並べ、藤づるでからめ、それで街道の狭いのを補った。長い間にこの木曾路に起こって来た変化は、いくらかずつでも峻険な山坂の多いところを歩きよくした。そのかわり、大雨ごとにやって来る河水の氾濫が旅行を困難にする。そのたびに旅人は最寄り最寄りの宿場に

底本：「夜明け前 第一部（上）」岩波文庫、岩波書店

1969（昭和44）年1月16日第1刷発行

底本の親本：「改版本『夜明け前』」新潮社

1936（昭和11）年7月発行

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。

※「ポルトガル」は、第二部ではすべて「ホルトガル」と表記されているので、「ポルトガル [#「ポルトガル」はママ]」としました。

入力：菅野朋子、小林繁雄

校正：高橋真也

2001年5月24日公開

2004年2月10日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、

青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。